

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 4月 24日

【評価実施概要】

事業所番号	0171401300		
法人名	有限会社ハマダコーポレーション		
事業所名	グループホームおもひで		
所在地	〒041-0835 函館市東山3丁目3番4号 (電話) 0138-32-5595		
評価機関名	社会福祉法人 北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年2月24日	評価確定日	平成21年4月24日

【情報提供票より】 (平成 21年 1月 8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 10月 11日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算	7.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	23,600～28,600 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	500 円
	夕食	550 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (1月 8日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護 1	0 名	要介護 2	2 名		
要介護 3	4 名	要介護 4	2 名		
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 85.3 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	菅原内科クリニック・医療法人富田病院・他
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は閑静な住宅街に立地している。純日本風の家屋を改築した、どこか懐かしい雰囲気のある事業所である。事業所の前は平野であり、利用者は散歩を楽しんでいる。町内会をはじめ地域との交流がしっかりできていて、運営推進会議などにも協力的である。適切な意見、助言などを得て、事業所の運営に反映している。一人ひとりその人らしく生活できるように、意識を持って更なる向上を目指している事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回評価では課題点は見られなかったが、事業所独自で更なる改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	全職員が自己評価の意義を理解し、前向きに質の向上に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に一度開催し、毎回活発な意見交換を行っている。その意見や案を事業所の運営に反映している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	事前に苦情相談窓口を明示し、家族に伝えている。その都度家族と話し合う機会を持ち、気楽に話し合える雰囲気に努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	積極的に地域の行事に参加し、町内会をはじめ近隣の住民や子供たちが事業所に来訪して、利用者との交流を深めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気の中で、その人らしく暮らせることを尊重し「生活」を大切にするという、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、職員が常に関覧できるようにし、日々確認しながら実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	玄関は、気楽に立ち寄ってもらえるような雰囲気がある。チャリティーコンサートや夏祭りなど、地域の行事に積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が、自己評価及び外部評価の意義を理解している。会議などでも話し合い、評価を活かして改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に一度開催している。利用者、家族、町内会、行政の意見や要望を収集し、サービスに活かせるよう職員間で話し合い、改善に向けて努力している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と連携を取っている。必ず出向いて直接相談に行き、サービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしの様子はビデオ、写真を用いてパソコンにまとめ、家族来訪時に見てもらっている。利用料は、家族にできるだけ持ってきてもらい、その都度出納を確認している。また、内容を送付し明確にしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事前に苦情相談窓口を明示している。推進会議などでも話し合いの場を設け、外部からの意見を運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が馴染みの関係を崩さないよう、職員の異動を必要最小限に抑える努力をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が平等に研修を受ける機会を確保している。研修受講後は、参加ができなかった職員に周知し、随時指導を進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会と連携を取り、研修勉強会を実施している。道南Bブロック33事業所との交流を通して、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に事業所を見学に来訪する体験利用の機会を設け、雰囲気に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に食事を摂り、食材の買出しも一緒に行く。調理、味付け、盛り付けは利用者に教えてもらう場面もあり、共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴に基づき一人ひとりの思いや意向を把握し、職員同士の情報も共有している。その人らしく暮らせるよう支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を一部採り入れ、連絡ノート、スタッフノートを活かして本人、家族の希望を把握し、具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	設定した介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、状態に変化が生じた場合はその都度本人、家族、職員で会議を行い新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望を取り入れた外出、受診対応など、様々な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の納得を得て、それぞれのかかりつけ医への受診支援を行っている。隔週、医師や看護師が訪問し、状態に応じて指示をもらい適切な医療が受けられるように支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営推進会議において重度化、終末期に向けての話し合いをしている。その中で家族の意向を重視し医師、看護師との連携をしっかりと取っている。週末期のあり方について、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の自尊心を傷つけることのないよう、職員同士がわかる言葉での介護を心掛けている。記録等の個人情報においてもプライバシーを損ねないようにしている。今後、記録や名簿等についても工夫していく予定である。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性と体調に合わせ、その人らしく生活が過ごせるように支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の健康状態に合わせ、調理方法を工夫している。誕生会を催したり、外食の機会を作ったりしている。利用者に負担のないよう気遣いながら、一緒に食事の準備や片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前に血圧、体重の測定を行い、健康状態に注意している。また、温泉水を運んできた入浴剤にも工夫をして、楽しんで入浴できるよう支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の食事前後の手伝いや掃除、洗濯たたみなど、利用者の生活歴に合わせた役割や楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に沿って買い物、散歩、ドライブなど、外出の機会を増やし楽しんでもらえるよう支援している。また、地域の行事にも積極的に参加している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は鍵をかけていない。夜間は施錠しているが、安全に配慮しながらも自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中、夜間を想定した定期的な避難訓練を実行している。地域住民の協力を得て、避難場所も確保している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の栄養のバランスを考えている。水分は多少個人差はあるが、1300cc以上を摂取し、おやつタイムにも飲み物ゼリーなどに工夫しながら、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。食事の献立作成は職員のみで行っている。	○	献立の内容ではバランスが取れているが、専門の栄養士の意見も参考にし、より良い食事内容にするよう期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は観葉植物を置き、季節の移り変わりが感じられる配慮をしている。おひな様、火鉢などを飾り、各所に家庭的な雰囲気をつくる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は使い慣れた家具、仏壇等を持ち込み、安心して過ごせる居室となっている。		

※  は、重点項目。